

社会科学習指導案

1 単元名 安全な暮らしを守る 「1 火事をふせぐ」(全12時間)

2 単元の目標

- ・火災から地域の人々の安全を守る活動について、関係機関は地域の人々と協力して、火災の防止に努めていることや関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを見学し、調査したり資料を活用したりして調べ理解し、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考え、表現する。

3 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
①火災から地域の安全を守る活動に関心を持ち、意欲的に調べている。 ②地域社会の一員として、火災から人々の安全を守るための活動に協力しようとしている。	①火災から地域の安全を守る活動について、学習問題や予想、学習計画を考えて記述している。 ②人々の安全を守るための関係機関の働きと、仕事に従事している人々や地域の人々の工夫・努力の大切さを考え、根拠を示して説明している。	①消防署を観点に基づいて見学したり、消防署や消防団、地域の人などから話を聞いたりして、火災から地域の安全を守る活動について必要な情報を集め、資料を読み取っている。 ②調べたことをグラフや白地図、作品にまとめている	①消防署の職員が関係機関と連携して火災に対応する体制が築かれていることや、地域の人々の安全を守る活動の大切さを理解している。 ②地域の人々が、消防署と協力して火災発生の防止に努力していることを理解している。

4 単元について

<学習指導要領の記述>

(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

ア 関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること。

イ 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていること。

5 単元構想 安全なくらしを守る 「1 火事をふせぐ」(全 12 時間)

見方・考え方

であつ
2 時間

①私たちのくらしの中で、どんな時に身の危険がせまるのだろう。

- ・地震や水害など、様々な災害が起きているね。
- ・火災も起きているよ。
- ・災害で人の命が亡くなることもあるよ。
- ・私たちの身の回りでも起きているね。
- ・交通事故も起きている。命が危険にさらされる場面はいろいろあるよ。
- ・災害はいつ来るかわからないけど、火事や事故は今も昔も変わらず起きているのかな。→②

②京都市では今も昔もたくさんの火事が起きているのだろうか。

- ・京都市は昔から火災はたくさん起きているんだ。古くからの建物も火事で燃えてしまってる。
- ・京都駅や小学校でも火事が起きたんだね。
- ・昔と比べると火事の発生件数は減っているようだ。
- ・京都市は大都市でもかなり火災の件数が少ないよ。
- ・どうしてこんなに件数が少ないのだろう。
- ・火事が起きないように取組が行われているのかな。
- ・私たちの身の回りにも何かあるのかな。
- ・学校でも火事が起きていたね。火事をふせぐための設備などはあるのかな。→③

③火事から守るため、学校のどこにどんな防災設備があるのだろう。

- ・いろいろな所に防火バケツが置いてあるよ。
- ・防火扉も設置してあるね。
- ・教室の上に何かあるよ。点検してるのを見たことがあるね。
- ・消火栓もいろいろな所にあるぞ。
- ・設備があるのは学校の中だけかな。→④⑤

④⑤火事から守るため、地域のどこにどんな防災設備があるのだろう。

- ・防火水槽があったよ。
- ・道路に消火栓があったよ。
- ・いろいろな場所に送水口が設置されてたよ。
- ・消防車がつかうのではないかな。
- ・消防団が火の用心の見回りもしていたよ。
- ・どんな人がこの設備を使うのかな？

誰がどのようにして火事からわたしたちの生活を守っているのだろう。

消防署ではどのような取組をしているのだろう。
→⑥⑦⑧

消防署外ではどのような取組をしているのだろう。
→⑨⑩

つかむ
3 時間

⑥⑦⑧消防署ではどのような取組をしているのだろう。

- ・火事が起きたらすぐに現場に向かえるようにしているんだ。
- ・いつ火事が起きてもいいように日々訓練して準備してるよ。
- ・火事が起きたらいろいろな機関と連携しているね。被害を小さくするためなんだ。
- ・火事が起きないように取組を行っている。
- ・火事が起きてから行動するのはもちろんだけど、起きないようにすることを一番大切にしているんだね。
- ・消防署の人は消防団とも関わっているのか。
- ・消防団だけではなく、警察やガス会社など様々な機関と協力をしているんだね。
- ・消防団の人はどんなことをしているのかな。→⑨⑩

⑨⑩消防団ではどのような取組をしているのだろう。

- ・普段は別の仕事をしているけれど、集まって訓練するんだ。
- ・いつ火事が起きてもいいように日々訓練しているんだね。
- ・火事が起きたときは消防署の人と協力して行動しているんだ。
- ・自分たちのまちを自分たちの手で守ろうという気持ちで頑張っているんだね。
- ・地域の人が自分たちの地域を守ろうという思いから行っているんだ。

調べる
6 時間

⑪なぜ火事から私たちの生活は守られているのだろう。

- ・消防署の人は普段から消火の訓練だけでなく防火の取組を進めていたね。
- ・消防署の人だけでなく、消防団の人ともいざという時に備えていたよ。
- ・火災が起きたときにどうするか大切だけれど、起きないようにするための取組が大切だね。
- ・いろいろな機関が協力することで火事からわたしたちの生活は守られているんだ。

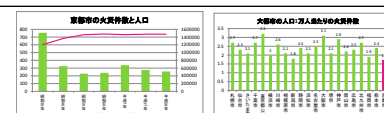
消防署や地域の消防団、様々な人や機関が連携して火災からわたしたちの生活を守っている。

⑫火災件数を減らして安全な街にするために自分たちはどんなことができるかな。

- ・火災件数は減ってきていたけれど、年 200 件ほどからはなかなか減っていかないね。
- ・消防署や消防団も防火の呼びかけまでしているのに、どうして減らないのかな。
- ・消防署や消防団だけではなく、私たちにもできることがあるんじゃないかな。
- ・どんなことができるかな。…なことができるようだ。自分たちにできることはほとんどないよ。
- ・私たちにできることってちょっとしたことだね。ちょっとしたことだけれど、そうやって意識をもつことが防火につながるのではないかな。消防署の人ともう話しているね。
- ・それをやったら本当に減るのかな。意識をもつっていうけど、去年勉強している 5 年生や 6 年生は意識しているのかな。
- ・意識をもち続けるのは難しいけれど、それでも自分にできることをやらないと減らせないよ。

私は火を消すことはできないけれど、おうちの人に伝えて放火されないようにしていきたい。おうちの人は今まで火災予防の訓練に行ったことがなかったけれど、行くように呼びかけて一緒に行ってみようと思う。そうすれば、家族の意識も高まるから火災が減るはずだ。

まとめる・いかす
2 時間



【見方・考え方】①(空・時)

・京都市の人口が増加してきたが、火災件数は減少してきている事実を時間的な視点からとらえたり、政令指定都市で比較してもその中で 1 万人当たりの火災発生件数が最も少ないということ、火災における京都市の現状に目を向けることができるようにする。

【見方・考え方】②③④(空)

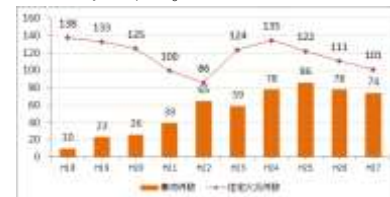
・校区地図や校内地図に防災設備を調べ、書きまとめる作業を通じ、全体を俯瞰すると様々な防災設備が建物の中だけでなくいたる所に分布していることを捉えることができるようにする。
・誰がこのような設備を利用しているのか、という視点から学習問題を設定する。
＜社会的事象の意味を問う問い＞
○どうしてこんなにたくさんの種類の設備がいろいろな場所にあるの？

【見方・考え方】⑥⑦⑧⑨⑩(空・相)

・勤務体系を工夫することで、24 時間火災に備えていることを捉えられるようにする。
・消防指令センターと連携することで、情報を適切に集約し、京都市中のいたるところに素早く駆けつけることができるようにしていることを理解できるようにする。
・消防署は消防団や警察などの諸機関と連携することによって火災から町を守っていることを捉えることができるようにする。
＜社会的事象の意味を問う問い＞
○なぜ消防署だけで取り組まないの？
○誰の(どの)活動が一番重要なの？
○政令指定都市での火災件数が最も少ないのに、なぜこんなに毎日訓練したり対策したりするの？

【見方・考え方】⑪(空・時・相)

・H.23 に火災報知機設置が義務化され、火災を未然に防いだり被害を小さくしたりすることができている事実を捉える。
・一方、①で使用したグラフを詳細に示し、昔と比較しても火事が依然として起きることや死者が出ていることなどを踏まえ、依然課題があることを捉えるようにする。



・地域の人々が行っている火災予防などを取上げ、自分たちにもできることはないかを考える。
→それをやることでどんな意味があるか、本当に意義があるのかを考える。

6 本時の目標 (1/12 時間目)

- ・京都市で起きた火災や事故などの資料を基に、自分たちの生活の安全を脅かす様々な事象に関心をもち、意欲的に調べることができるようにする。

7 本時の展開

学習活動 見方・<考え方>	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 資料を基に本時のめあてをたてる。 <比較><関連>	<p>○これは何の写真でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが運動場に集まっているな。 ・集団下校の様子かな。 <p>○同じ日の別の学校の写真です。どんなことが共通しているかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こっちでも集団下校しているよ。 ・おうちの人が連れて帰っているね。 <p>○どちらも 2018 年 6 月 18 日の午前中の写真です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 月っていうと、地震があったときだ。 ・地震があつて集団下校したんだ。 <p>○なぜ集団下校しているのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震があつたら命の危険があるからだ。 ・学校で何かあつたら大変だから学校の授業が中止になったんだ。 <p>○地震が起きると私たちの命に危険がせまってきますね。他にも私たちの命が危険にさらされるときはあるでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>私たちのくらしの中で、どんな時に身の危険がせまるのだろう。</p> </div>	<p>◆集団下校の資料ははじめその一部を提示した状態で発問し、その後全体を示すようにする。</p> <p>◆共通点を見つけるように発問する。</p> <p>●自分たちはどうしたかを振り返ることで、自身の経験を共有できるようにする。</p> <p>●避難訓練やこれまでの安全教育を振り返り、なぜ集団下校したのかを考えるようにする。</p>
2 生活経験を基に予想を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震だけではなく、洪水や台風でも危険だよ。 ・火事や交通事故でも命の危険があるよね。 	<p>◆生活経験を基に予想するようにする。</p>
3 資料を基に身の回りの災害や事故の様子について調べる。 分布 <比較><総合>	<p>○京都市で起きた災害や事故でどんな被害があるのか調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7 月には大雨が降ったね。鴨川が氾濫しそうになっているよ。 ・川の水があふれたら、町中が水浸しになって生活できなくなるな。 ・5 年前には特別警報が出た時は、今年よりも川の水が増水したようだね。 ・今年になってから京都市で火事も起きているよ。祇園で火事が起きたんだね。 ・祇園だけでなく、先斗町でも数年前に火事が起きてるよ。いろいろな場所で火事が起きているようだね。 ・火事が起きたら火が回ってきて、命が危険に 	<p>●個人用の資料を配布し、各自が手元で調べられるようにする。</p> <p>●京都市の災害等の資料を用意することで、身の安全が脅かされている状況があることをとらえられるようにする。</p> <p>●自然災害と人災を分類できるように、子どもの発言に問いを返すようにする。</p> <p>◆なぜ危険なのか理由を問うようにする。</p>

	<p>さらされるね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通事故も起きている。写真は四条通で起きた事故のようだ。 ・警察や消防署の人かな，事故があったところで聞き取りや調査をしているよ。 ・今年だけでもたくさんの災害があるね。 	
<p>4 災害等の様子から，誰・どこに，どのような被害が生じるか考える。</p> <p>＜関連＞＜総合＞ ＜類推＞</p>	<p>○様々な災害や事故がありますが，どんなところで被害があると考えられますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水の被害は川の付近に住んでいる人に被害があるな。 ・事故は交通量の多い所で起きそうだな。 ・火事は人が住んでいたらどこでも起きるんじゃないかな。 ・地震も起きたら京都市全体に被害があるよ。 ・災害や事故はどこでも起きる可能性があるし，誰でもその被害にあう可能性があるね。 	<p>●誰，どのような場所に被害が出るのかを考えることにより，自然災害は広範囲に，人災はどこでも起きる可能性があること，誰にでもその被害が及ぶ可能性があることに気付けるようにする。</p>
<p>5 本時の問いに対するまとめを行い，次回の学習の見通しをもたせる。</p>	<p>○本時の問いについて答えをまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地震や大雨による洪水などの自然災害や，火事や事故の人災など，様々な身の危険がある。</p> </div> <p>○私たちの身の周りで様々な災害や事故が起きて，その被害にもだれでも合いそうです。どれも私たちの生活の安全を脅かすものですね。毎日みんなはそんなことを気にしながら生活しているかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きた時は気にしているけど，普段はあまり考えないな。 ・事故にあわないように気を付けて登下校しているよ。 ・事故や火事，様々な災害が起きているようだけど，今まで困ったことはあまりないよ。 	<p>◆子どもたちの声をつなげてまとめるようにする。</p> <p>●普段の生活であまり気にしていないこと，それでも安全に暮らしていることを捉えられるように子どもたちに問いかける。</p>
<p>6 本時の振り返りを行う。</p>	<p>○本時の振り返り『今日の学習で一番印象に残ったこと』を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震や火事などの災害や事故など様々な身の危険が身近にあるとわかりびっくりした。私たちの生活の安全が守られないのではないかと思った。 ・◇実際に起きたら命の危険があったり，生活が脅かされたりするのに，普段あまりそんな危険を感じなくても生活できるようだね。安全なくらしはどうやって守られているのか，これから学習をしていきましょう。 	<p>◆振り返りの視点として，本時では一番印象に残っていることを振り返るよう視点を明示する。</p> <p>【関心・意欲・態度①】 自分たちの生活が様々な災害等の危険と隣り合わせであることに気づき，どのように生活が守られているのか調べようとしている。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p>

8 板書計画

私たちのくらしの中で、どんな時に身の危険がせまるのかな。

大阪北部地震 新聞記事	大阪北部地震 新聞記事	京都市内 交通事故写真	四条通 交通事故写真
<ul style="list-style-type: none"> ・こっちでも集団下校しているよ。 ・おうちの人が連れて帰っているね。 ・みんなが運動場に集まっているな。 ・集団下校の様子かな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月18日というと、地震があつた日だ。 ・避難訓練と同じように迎えに来ているんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故も起きている。写真は四条通で起きた事故のようだ。 ・たくさんの人が集まっているよ。 ・警察や消防署の人かな、事故があつたところで聞き取りや調査をしているよ。 	

鴨川氾濫の様子	鴨川氾濫の様子	火事新聞記事等	火事新聞記事等	台風被害 新聞記事等
<ul style="list-style-type: none"> ・7月には大雨が降ったね。鴨川が氾濫しそうになっているよ。 ・川の水があふれたら、町中が水浸しになって生活できなくなるな。 ・5年前は今年よりも鴨川の水が増水したんだね。 		<ul style="list-style-type: none"> ・祇園で火事が起きたんだね。消防車が出動しているよ。 ・先斗町でも起きている。火が燃え上がっているね。 		<ul style="list-style-type: none"> ・この前の台風の記事だね。風で神社が壊れてしまっているよ。

災害や事故はどこでも起きる可能性があるし、誰でもその被害にあう可能性がある。

地震や大雨による洪水などの自然災害や、火事や事故の人災など、様々な身の危険がある。

6 本時の目標 (2/12 時間目)

- ・ 京都市の火災件数の変化や全国と比較した状況の資料から火災件数の減少をとらえ、私たちの安全が守られていることに気付くとともに、どのようにその安全が守られているのか関心をもつことができるようにする。

7 本時の展開

学習活動 見方・＜考え方＞	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。	<p>○私たちの生活の安全を脅かすものがありました。どんなものがあったかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震や大雨などの自然災害がありました。 ・火事や事故などの人災もあったね。 ・今年に入ってからだけでもいろいろな種類の災害や火事・事故があったね。 ・京都市のいろいろな場所で起きていたよ。 ・どこにいても災害や事故に出合う可能性があったな。 <p>○私たちの安全が守られないと生活していく上でとても困りますね。では、次の写真を見てください。何の写真か分かりますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは金閣だね。いったことがあるよ。 ・京都駅の写真だ。駅ビルが有名だ。 ・これはどこかの小学校の写真かな？ ・御所の写真かな？すぐ近くにあるね。 <p>○これらの写真の建物は、どれかの災害に共通して被害にあっています。何だと思う？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震かな。広範囲に影響が出るからね。 ・事故は考えにくいなあ。 ・大雨で水につかったとかじゃないかな。 <p>○実は火事に合って、焼失しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白黒写真だ。昔の様子だね。 ・ひどい火事だ。全部燃えている。 ・昭和 25 年や 32 年ということはかなり昔だ。 ・京都市では今も昔も火事が多かったのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>京都市では今も昔もたくさんの火事が起きているのだろうか。</p> </div>	<p>●現在の京都市の建物も以前火事にあっていることを写真を比較することでとらえられるようにする。</p> <p>●前時の学習も想起することで、今も昔も火事が起きていることに気付かせることで、本時の問いを立てることができるようにする。</p>
2 生活経験やこれまでの学習を基に予想を立てる。	<p>○これまでの学習で分かったことや生活を振り返って予想を立てましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古くからの有名な建物まで火事になっているからやはり多かったのではないかな。 ・今年になってからも火事が起きていたね。やっぱり頻繁に起きているのではないかな。 ・大きな建物の火災は最近聞かないから、火災件数は減っているのではないかな。 	<p>◆用いた資料等を基に予想するように声掛けする。</p>

<p>3 資料を基に京都市の火災の実態について調べ、どのような事がいえるのか考える。</p> <p>時代・変化・地域 <比較><関連></p>	<p>○京都市の火災発生件数のグラフと京都市の人口のグラフはどう変化していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災の件数は昭和 30 年が一番多かったけど、それ以降は減ってるよ。 ・少し増えた時期もあるけど、全体としては減ったといえそうだ。 ・人口は平成 28 年が一番多いのかな。昭和 30 年から増え続けているよ。 ・昭和 50 年くらいから変化はあまりないけれど、昭和 30 年に比べると人口は増えたんだ。 <p>○火災件数と人口のグラフ、それぞれから読み取ったことをあわせてみると、どんなことがいえますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口は増えているけれど火災は減っているね。 ・人口が増えたら火災は増えるはずでは？ ・どうして人口が増えているのに火災は減っているのかな。 <p>○人口が増えたらたしかに火災も増えそうですね。他の地域と比べてみるとどうなのかな。京都市は減ってきているけどやっぱり多いのかな、それとも少ないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の政令指定都市と比べてもやっぱり京都市は火事の件数が少ないみたいだよ。 ・東京は京都市よりも約 2 倍多いんだ。なぜこんなに京都は火災が少ないのかな。 	<p>●個人用の資料を配布し、各自が手元で調べられるようにする。</p> <p>◆それぞれのグラフからどのようなことが読み取れるのか、変化の特徴や傾向に着目するよう声かけする。</p> <p>◆資料からどのような事実が分かるかをまず読み取らせ、その事実を基にどのような事が考えられるのか、どんな疑問が浮かび上がるか、段階を踏まえて問うようにする。</p> <p>●京都市と全国を比較して全国と比較しても少ない事実をとらえられるようにする。</p>
<p>5 本時の問いに対するまとめを行い、次回の学習の見通しをもたせる。</p>	<p>○調べて分かったことをまとめるとどんなことがいえるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都市は昔から火事が起きているけれど、どんどん減ってきて火事が少なくなってきた。 ・火事が少ないから安全な街になってきている。 ・安心してくらせる街に変わってきた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>京都市は以前から火事があったが、どんどん減ってきて全国でも火事の少ない都市になってきたので、他の都市より安心してくらせる街になった。</p> </div> <p>◇火事が少ないと確かに安心してくらせるね。火事が起きないような工夫や火事から守る工夫があるのかな。京都市では昔学校も火事が起きているけれど、私たちの学校は火事から守られるのかな。</p>	<p>◆調べて分かったことを基に本時の問いに対する答えをまとめる。</p> <p>◆火事が減ってきた、少ない、ということはつまりどういうことかを考えさせることで、安心な街になってきたことに気付けるようにする。</p> <p>◆本時に使用した資料を活用し、自分たちの生活している学校の安全について調べようとする意欲が高められるようにする。</p>
<p>6 本時の振り返りを行う。</p>	<p>○本時の振り返り『考えたこと、疑問におもったこと』を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやって火事が減ってきたのかな。何か秘密があるのかなと思った。 	<p>【関心・意欲・態度①】 火事を身近なものとしてとらえ、それを防ぐ設備に関心をもっている。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p>

8 板書計画

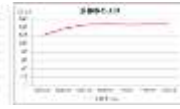
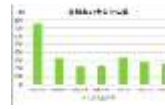
京都市では今も昔もたくさんの火事が起きているのだろうか。

京都御所
現在の
京都御所
写真

京都駅
現在の
京都駅
写真

金閣
現在の
金閣
写真

〇〇小学校
現在の
京都市立小学校
写真



京都御所
過去の火事
の写真

京都駅
過去の火事
の写真

金閣
過去の火事
の写真

京都市立小学校
過去の火事
の写真

- ・火災の件数は昭和 30 年が一番多かったけど、それ以降は減っている。少し増えた時期もあるけど、全体としては減ったと言えそう。
- ・人口は平成 28 年が一番多い。昭和 30 年から増え続けている。
- ・昭和 50 年くらいから変化はあまりないけれど、昭和 30 年に比べると増えたといえる。

- ・全国の政令指定都市と比べてもやっぱり京都市は火事の件数が少ないみたいだよ。
- ・東京は京都市よりも約 2 倍多いんだ。なぜこんなに京都は火災が少ないのかな。

- ・昔から有名な建物まで火事になっているからやはり多かったのでは。
- ・今年になってからも火事が起きていた。頻繁に起きているはず。
- ・大きな建物の火災は最近聞かないから、火災件数は減っている。

→人口が増えたら火災は増えるんじゃないの？
→どうして人口が増えているのに火災は減っているのかな。

京都市は以前から火事があったが、どんどん減ってきて全国でも火事の少ない都市になってきたので、他の都市より安心してらせる街になった。

6 本時の目標 (3/12 時間目)

- ・自分たちの校内の防災設備について調べ、火事から身を守るために様々な防火設備があることに気付くことができるようにする。

7 本時の展開

学習活動 見方・＜考え方＞	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。	<p>○京都市の火災の様子を調べてどんなことが分かりましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口が増えてるけど火災件数は減ってたな。 ・政令指定都市での 1 万人あたりの火災は最も少なかったね。 ・いろいろなところで火事が起きていたよ。昔学校でも火事が起きていたね。 ・私たちの学校で火事が起きても大丈夫なのかな。 <p>○学校で火事が起きたら安全は守られないのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔とは違うから大丈夫だろう。 ・火事が起きても火が回らないように防火扉があるよ。 ・大きな音のなるベルもある。いろいろな設備があったと思うな。 	<p>●学校生活の中で目にしたことのある設備を想起させることで、本時の問いにつなげるようにする。</p>
2 学校生活を振り返って予想を立てる。	<p>○どんな場所にどんな設備があるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防火扉が階段にあったと思うよ。 ・この教室にも防火ベルがあるぞ。 ・防火バケツも設備の一つじゃないかな。 ・消すための設備とにげるための設備があるようだ。 ・みんなで実際にどこにどんな設備があるか調べてみよう。 	<p>●子どもたちの話に挙げた設備の写真を掲示することで、この後の調査で見つける設備を認識できるようにする。</p> <p>◆「設備」が「どこ」にあるのかを予想するようにする。</p>
3 グループごとに分担して校内の消防・防火設備について調べる。 分布	<p>○どんな場所にどんな設備を見つけましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段のところには防火扉がありました。 ・教室の前には防火バケツがあります。 ・火災報知器も廊下にありました。 ・教室の天井にも必ず報知器があります。 ・消火栓がいくつかありました。 ・学校の外にも消火栓があります。 ・教室の前には火元責任者という先生の名前がありました。見回っているんだと思います。 <p>○調べたことをまとめた地図を見ると、学校のどんなところにあるといえるかな。</p>	<p>◆学校のどこを調査するのか、グループごとに場所を分担して調べるようにする。</p> <p>◆校内地図をグループに配布し、設備の表現の仕方を統一することで、全体でまとめやすくするようにする。</p> <p>◆調べたことを全体で一つの地図にまとめるようにする。</p>

<p>4 たくさんの設備がある意味を考える。</p> <p>工夫・対策・事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下や教室，階段など，学校中にあるね。 ・多くが火事が起きた時に火事を知らせてくれるものだね。 ・教室には必ず報知器があるね。 ・廊下にも必ず報知器があるよ。 ・防火バケツも必ずおいてあるね。 ・これだけあったらどこで火事が起きててもすぐに知ることができるね。 ・学校を火事から守るために火事が広がらない設備や火事を消す設備を整えたり，火事から守るためのルールを作ったりしているんだ。 <p>○確かにたくさんの設備が学校のいろいろな所にはありましたが，こんなにたくさんの設備，学校のいろいろな所に本当に必要ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対必要です。もしどこかなかったら，そこで火事が起きた時気付けないからです。 ・なかったらいざという時避難したり消したりすることができないからです。 ・火事は逃げ遅れたら命がありません。何か起きたら困るので絶対必要です。 <p>○火元責任者を決めているのは校長先生だね。なぜ火元責任者を決めたり学校でいろいろな所に防火バケツを置いたりしているのかお話を聞いてみよう。</p>	<p>●完成した資料を見ることで，どのような所にどのようなものがあるのか，資料を見る視点を示すことで，なぜ学校に様々な設備があるのかを考えられるようにする。</p> <p>【技能②】</p> <p>校内の防災設備を調べ，どこにどのような設備があるか記録している。</p> <p>(ノートの記述)</p> <p>●なぜたくさんあるのか，事実を基のその意味を考える発問をするようにする。</p>
<p>5 本時の問いに対するまとめを行い，次回の学習の見通しをもたせる。</p>	<p>○学校中に様々な設備がありました。どうしてこんなにたくさんの設備があるのか，今日の学習を通してわかったことをまとめましょう。</p> <div data-bbox="419 1406 1031 1581" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>火事から逃げるための設備や火事を消すための設備が学校中にあった。火事からみんなの命を守るために必要なので，たくさんの設備が様々な所に設置されている。</p> </div>	<p>◆調べて分かったこと，考えたことを基に本時の問いに対する答えをまとめる。</p>
<p>6 本時の振り返りを行う。</p>	<p>○今日の学習で一番印象に残ったことを振り返りで書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校には思っていた以上に火事から身を守る設備があった。これだけたくさんあったら安心して生活できると思う。 <p>◇学校には火事から身を守るための設備がたくさんあることがわかったね。学校の周り，校区ではどうだろう。学校の外で起きてても火事から守るための設備はあるのかな？</p>	<p>◆今日の調査や話し合いを通じて一番印象に残ったことについて振り返るよう声かけをする。</p> <p>◆校区はどうなっているのか話をすることで，次時につなげることができるようにする。</p>

8 板書計画

火事から守るために学校のどこにどのような設備があるのだろう。

校内の防火設備の写真

防火扉が階段にあったと思うよ。

- この教室にも防火ベルがあるぞ。
- 防火バケツも設備の一つじゃないかな。
- 消すための設備とにげるための設備があるようだ。

校内地図

- 廊下や教室，階段など，学校中にある。
 - 多くが火事が起きた時に火事を知らせてくれるもの。
 - 教室には必ず報知器がある。
 - 廊下にも必ず報知器がある。
 - 防火バケツも必ずおいてある。
- これだけあったらどこで火事が起きてもすぐに知ることができる。



- 絶対必要。もしどこかなかったら，そこで火事が起きた時気付けない。
- なかつたらいざという時避難したり消したりすることができない。
- 火事は逃げ遅れたら命がない。何か起きたら困るので絶対必要。

火事から逃げるための設備や火事を消すための設備が学校中にあった。火事からみんなの命を守るために必要なので，たくさんの設備が様々な所に設置されている。

6 本時の目標 (4・5/12 時間目)

- ・自分たちの校区の防災設備について調べ、火事から身を守るために様々な防火設備があることに気付くとともに、このような防災設備をだれが使用しているのかを考えることで、自分たちの生活を火事から守ってくれている人々の存在に気付き、学習問題を立てることができるようにする。

7 本時の展開

学習活動 見方・＜考え方＞	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。	<p>○学校には様々な防災設備がありました。どんなところがありましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段には防火扉がありました。 ・この教室の前には防火バケツがあります。 ・学校中に火事から逃げるための設備や火事を消すための設備がありました。 ・どんなところにも設備があるのは万が一火事があったとき命を守れるようにするためだ。 <p>○学校にはいろいろな設備があつてわたしたちを守っているけれど、私たちの校区には同じように守ってくれる設備はあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の中にこれだけあるからやはりあるのではないかな。 ・消火栓のようなものは私たちの校区で見たことがあるな。 ・火事を防ぐための設備はどんなところにあるのかな。学校以外の場所にはどんな設備があるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>火事から守るために校区のどこにどのような設備があるのだろう。</p> </div>	<p>●学校の設備を想起させたり、普段の生活で見たことのある設備を想起させたりすることで、本時の問いにつなげるようにする。</p>
2 普段の生活や前回の学習を振り返って予想を立てる。	<p>○どんな施設がどんなところにあると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火栓は道路にあつたんじゃないかな。 ・看板で示されていなかったかな。 ・どこにどんな設備があるのか調べよう。 	<p>●子どもたちの話に挙げた「設備」が「どこ」にあるのかを予想するようにする。</p>
3 グループごとに分担して校内の消防・防火設備について調べる。 分布	<p>○安全に気をつけて校区の防災設備を調べましょう。どこにどんなものがあるのか、見つけたものをグループごとに地図に整理しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の近くにも消火栓があつたよ。 ・学校の隣には消防団の建物があるね。 <p>○校区のどこにどんなものがあつたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火栓が・・・にありました。 ・防火水槽が・・・にありました。 ・送水口と鋳物がありました。 ・家の前に防火バケツが置かれている家もあり 	<p>◆校区のどこを調査するのか、グループごとに場所を分担して調べるようにする。</p> <p>◆校区地図をグループに配布し、設備の表現の仕方を統一することで、全体でまとめやすくするようにする。</p> <p>◆調べたことを全体で一つの地図にまとめるようにする。</p>

<p>4 校区と校内の設備の分布や種類を比較し、どのような意味があるのか考える。</p> <p>工夫・対策・事業 ＜比較＞＜分類＞</p> <p>5 本時の問いに対するまとめを行い、これまでの学習で分かったことを踏まえ、学習問題を立てる。</p> <p>6 次時の見通しをもつ。</p> <p>7 本時の振り返りを書きまとめる。</p>	<p>ました。</p> <p>○校区と校内、設備で共通していること、ちがっていることはどんなことあるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内も校区もどちらもいろいろな場所に火災から守るための設備があります。 ・校内は火事から安全に逃げるための設備がたくさんあったけど、校区には消すための設備がよりたくさんあったね。 <p>○なぜ校区には消すための設備がより多くあるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事を早く消すことで火が燃え広がるのを防ごうとしているのかな。 ・早く消すことで、私たちの生活を火事から守ることができるからではないかな。 <p>○今日の学習問題について調べて分かったことをまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学校内と同じように校区にも様々な設備がたくさんあった。火事が起きたときにすぐに火を消すための設備が多くあり、火事の被害を少なくしようとしている。</p> </div> <p>○校内にも校区にも様々な設備がありましたが、これらの設備はだれがどのように利用するのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やはり消防署の人が使うのではないかな。 ・消防署の人だけなのかな。違う人たちも使っているのではないかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">単元の学習問題</p> <p>誰がどのようにしてわたしたちの生活を火事から守っているだろう。</p> </div> <p>◇消防署や消防署以外の人も関わっているのではないかという予想が出ています。消防署の人がどのように火事からわたしたちの生活を守っているか、次回調べていきましょう。</p> <p>○今日の振り返りを書きます。「これから調べたいこと」、「学習問題について今考えていること」という視点で書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やはり消防署は大きく関わっていると考えられる。消防署の人はいったいどのような事をしているのかな。 ・すぐに火事の現場に駆け付けて、校区にあった設備を使って火を消しているのではないかな。 ・火を消すとき以外は何をしているのかな。 	<p>●校区と校内ではどのような共通点があるのか、また、どのような相違点があるのかを考えるように問いかけることで、校区には火を消すための設備がより多くあることに気付かせる。</p> <p>●なぜ校区は消す設備がより多いのかを考えることで、被害を小さくしようとしていることに目を向けられるようにする。</p> <p>●『誰が』使う設備なのかを問いかけることで、消防署などの関係機関に目を向けられるようにする。</p> <p>◆消防署以外の人の視点が出てきた場合は、学習計画に含めるようにする。</p> <p>◆次時の学習について触れるようにする。</p> <p>◆「これから調べたいこと」、「学習問題について今考えていること」という視点で振り返るように声掛けをする。</p> <p style="text-align: center;">【思考・判断・表現①】</p> <p>学習問題を立て、火事を防ぐための取組について調べる計画を立てている。</p> <p style="text-align: right;">(発言・ノートの記述)</p>
---	--	---

8 板書計画

火事から守るために校区のどこにどのような設備があるのだろう。

- ・消火栓は道路にあったんじゃないかな。
- ・看板で示されていなかったかな。

校区地図

校内地図

- ・消火栓が・・・にあった。
- ・防火水槽が・・・にあった。
- ・送水口と鋳物があった。
- ・家の前に防火バケツが置かれている家もあった。



- ・校内も校区もどちらもいろいろな場所に火災から守るための設備がある。
- ・校内は火事から安全に逃げるための設備がたくさんあるが、校区には消すための設備がよりたくさんある。
- ・早く消すことで火が燃え広がるのを防ごうとしている。
- ・早く消すことで、私たちの生活を火事から守ることができる。

学校内と同じように校区にも様々な設備がたくさんあった。火事が起きたときにすぐに火を消すための設備が多くあり、火事の被害を少なくしようとしている。

誰がどのようにしてわたしたちの生活を火事から守っているだろう。

●消防署の取組について調べる。

●消防署以外の取組について調べる。

6 本時の目標 (6・7/12 時間目)

- ・火事が起きた時、消防署の人々はどのように火事からわたしたちの生活を守っているのか、資料を基に調べ、分かったことをまとめることができるようにする。

7 本時の展開

<p>学習活動</p> <p>見方・<考え方></p>	<p>○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問</p> <p>・予想される児童の反応</p>	<p>●支援◆留意点</p> <p>【評価の視点】</p>
<p>1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。</p> <p>分布・地理的位置</p> <p>地域</p> <p>2 普段の生活や前回の学習を振り返って予想を立てる。</p>	<p>○火事が燃え広がるまでどのくらいかかると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出火してから 30 分くらいかな。 ・もっと早く広がるはずだ。10 分くらいかな。 <p>○17 分もすると広く燃え広がるそうです。前回消防署の人たちが私たちの生活を火事から守っているという予想が出ましたが、このような火事から本当に守っているのか調べます。</p> <p>○消防署といいますか、どこに消防署がありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中京消防署が堀川御池の交差点のところにあるよ。 ・中京消防署ということは京都市には他にもあるはずだ。 <p>○消防署などの消防施設は京都市のどのあたりにあるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの区に消防署が一つあるね。 ・消防署だけではなく、消防出張所が 36 か所もあるよ。 ・中心には消防局があるのか。 ・たくさんの消防施設があるのは火事が起きたらすぐに現場に駆け付けることができるようにするためではないかな。 ・ほんの少しの時間で火事はどんどん広がってしまうから、そのためたくさんの消防施設があるんだ。 <p>○火事の被害を小さくするため消防施設がたくさんあるようです。実際に火事の現場まで連絡があってから 6 分程で到着するそうです。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>消防署の人たちは火事が起きても被害を小さくするために、どのようなことをしているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・消防車ですぐ出動できるように準備をしているのではないかな。 ・たくさんの消防車で駆けつけるのではないかな。 ・火事に巻き込まれる人が増えないように立入禁止の場所を作って入れないようにしているはずだ。 	<p>●副読本の資料に載っている資料をパワーポイントで提示することで、火事の炎症についてイメージできるようにする。</p> <p>◆京都市の消防署関連施設がどこにあるのか図を提示して示すようにする。</p> <p>◆消防署関連施設がどのところに分布しているのか考えるように声かけをする。</p> <p>●消防車が到着するまでの時間を提示し、被害を小さくしようと努力していることに気付けるようにする。</p>

<p>3 火事が起きた時に誰がどのようなことをして消火活動にあたるのか調べる。</p> <p>役割・影響・協力 仕組み・連携 ＜分類＞</p>	<p>○火事が起きた時の様子を調べ、誰がどんなことをしているのか調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防指令センターから消防署へ連絡がいくんだね。 ・消防車のナビに火災の場所などの情報が届くようだ。 ・すぐ着替えられるように服が準備してあるね。 ・様々な種類の消防車を火事の種類の合わせて使うことで被害を少なくしているんだ。 ・校内や校区調べで見つけた消火栓は消防車につながるようだ。すぐにホースをつけて水を出すことができるね。 ・消防署だけでなく、警察やガス会社、電力会社にも連絡がいくようだ。 ・警察の人は交通整理や人が入ってこれないようになっているよ。 ・ガス会社の人はガスを止めているね。ガスを止めないと被害が大きくなるからだ。 ・電気会社の人も電気を止めているよ。ここでも被害を小さくしようとしているんだ。 	<p>◆「通報から出動まで」の資料と「火災現場の様子」の資料を提示する。</p> <p>●「誰」が「何を」しているのかに着目することで、消防署の仕事と消防署以外の活動に目を向けることができるようにする。</p> <p>●調べてわかったことをグループで対話し、考えを広げられるようにする。</p> <p>【技能②】</p> <p>火事が起きた時の消防署や関係機関の取組について資料や見学を基に調べたことをまとめている。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p>
<p>4 消防署の活動とそれ以外の機関の活動の工夫について考える。</p> <p>＜比較＞＜分類＞</p>	<p>○消防署の人はもちろん、それ以外の人も火事の被害を小さくするために動いているようです。それぞれどんな工夫ということができるでしょう。</p> <p>＜消防署＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署の人は火をすぐ消すための工夫といえるのではないかな。 ・火を早く消して燃え広がるのを防ぐための工夫といえそうだ。 ・火事の現場にすぐに行って火を素早く消したり人を助けたりすることができるようにするための工夫といえるのでは。 <p>＜消防署以外＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防指令センターから消防署以外にも連絡がいくよ。 ・警察署の人やガス会社、電気会社の人は直接火を消したりはしていないね。 ・火は消していないけど、ガス会社や電気会社の人がいることで被害を小さくしているよ。 ・警察の人が立ち入りを制限したり誘導したりすることで、消火活動の邪魔にならず、スムーズに火が消せるよ。 ・火事に巻き込まれる人も減らせそうだね。 <p>○消防署はどのようにして火事の被害を小さくしているといえますか。</p>	<p>●消防署以外の機関に目を向けることで、消防署だけの取組では十分でないことに気付くことができるようにする。</p> <p>●消防署と消防署以外の人々の活動に分類し、それぞれの取組がどのような意味をもっているのかを考えることで、関係機関と協力する意義を捉えられるようにする。</p>
<p>5 本時の問いに対するまとめを</p>		

<p>行い、振り返りを書きまとめる。</p>	<p>素早く火災現場に行って火を消せるように準備したり、警察やガス会社などいろいろな機関と協力したりして、火事の被害を小さくしている。</p> <p>○この時間の学習を通じて「なるほど」と思ったことや「工夫しているな」と感じたことを書きましょう。</p>	<p>【知識・理解①】</p> <p>火事が起きた時の消防署や関係機関との連携等を理解している。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p> <p>◆どのような視点で振り返るか、振り返りの視点を提示する。</p>
------------------------	---	---

8 板書計画

消防署の人たちは火事が起きても被害を小さくするために、どのようなことをしているのだろう。

京都市消防署
パンフレット拡大図

京都市消防署
パンフレット拡大図

京都市消防署
パンフレット拡大図

- ・それぞれの区に消防署が一つある。
- ・消防出張所が 36 か所もあるよ。
- ・中心には消防局があるのか。

消防署

- ・消防署の人は火をすぐ消すための工夫。
- ・火を早く消して燃え広がるのを防ぐための工夫といえそう。
- ・火事の現場にすぐに言って火を素早く消したり人を助けたりすることができるようにするための工夫。

消防署以外

- ・消防指令センターから消防署以外にも連絡がいく。
- ・火は消していないけど、ガス会社や電気会社の人がいることで被害を小さくできる。
- ・警察の人が立ち入りを制限したり誘導したりすることで、消火活動の邪魔にならず、スムーズに火が消せる。

素早く火災現場に行って火を消せるように準備したり、警察やガス会社などいろいろな機関と協力したりして、火事の被害を小さくしている。

6 本時の目標 (8/12 時間目)

- ・火事が起きていないとき、消防署の人々は火事からわたしたちの生活を守るためにどのようなことをしているのか、資料を基に調べ、分かったことをまとめることができるようにする。

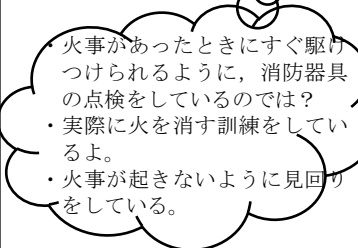
7 本時の展開

学習活動 見方・＜考え方＞	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。	○火事が起きた時、消防署の人がすぐに動いて火事の被害を小さくしてくれるのがわかりました。災害出動した時の消防士の方の一日の様子です。 ・出動して火を消して終わりではないんだね。 ・そのあと点検や次の準備もしているよ。 ・火事の後の調査も行うんだね。 ○ただ火を消して終わり、というわけではないことがわかります。火事が起きていないとき、消防署の人は何をしているのかな？	●前時の学習で消防士が行っていた活動を資料「災害出動をすると」で確認する。
2 普段の生活や前回の学習を振り返って予想を立てる。 協力・連携	・火事があったときにすぐ駆けつけられるように、消防器具の点検をしているのでは？ ・実際に火を消す訓練をしていると思うよ。 ・火事が起きないように見回りをしているのではないかな。	
3 消防士が普段どのようなことをしているのか調べる。 役割・影響・協力 仕組み・連携 ＜分類＞	○火事のない時、消防士の方はどのようなことをしているのかを調べ、何のためにしているのか考えましょう。 ・24時間も勤務しているね。 ・夜中も勤務しているんだ。 ・午前と午後に訓練が行われているよ。やはり訓練は必要なんだね。 ・防火指導というのがあるよ。お年寄りの家や家庭を訪問して防火指導をするらしいよ。 ・自主防災組織や消防団への指導をしている。災害に備えて消防署以外の人にも訓練や備えの指導をしているようだ。	◆「消防士の一日」、「予防業務」の資料を提示する。 ●具体的な取組を調べることで、火事を消すことだけが仕事ではないことに気付けるようにする。
4 普段行っている活動の意味や意義について考える。 ＜関連＞	○火事がない時でも様々な仕事があるようです。なぜこのような取組が必要なのですか。 ・訓練は実際に火事があったときに素早く消火活動を行うことができるようにするためだ。 ・防火指導をすることで、火事そのものが起きないようにすることを目指しているね。 ・人の多いデパートや病院などの安全が守られ	◆消火以外にも防火という観点から様々な取組をしていることに目を向けるようにする。 ●防火活動の意味を考えることで、消防署の役割について考えることができるよう

<p>5 本時の問いに対するまとめを行い、振り返りを書きまとめる。</p>	<p>ているかを点検することで、火事による被害を減らそうとしているね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織や消防団への指導を行っているのは、地域の人と災害があったときに協力して被害を少なくできるようにするためだ。 ・ 24 時間勤務しているのは、夜中に火事があったときでもすぐに駆けつけることができるようにするためだね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>火事がない時でも火事が起きないように、もし火事が起きた時にも困らないように準備をすることで、火事による被害を小さくしようとしている。</p> </div> <p>○この時間の学習を通じて「なるほど」と思ったことや「工夫しているな」と感じたことを書きましょう。</p> <p>◇消防団など、消防署以外の地域の組織と関わっていることが見えてきました。消防団はどんなことをしているのでしょうか。</p>	<p>にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループでの対話を通じ、どのような意味があるのかを考えられるようにする。 <p style="text-align: center;">【知識・理解①】</p> <p>火事を防ぐための消防署の取組を理解している。 (発言・ノートの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆どのような視点で振り返るか、振り返りの視点を提示する ●地域との連携をしていることに触れることで、次時の学習へとつなげることができるようにする。
---------------------------------------	---	---

8 板書計画

消防署の人々は、火事が起きていないとき、どのようなことをしているのだろう。




- ・火事があったときにすぐ駆けつけられるように、消防器具の点検をしているのでは？
- ・実際に火を消す訓練をしているよ。
- ・火事が起きないように見回りをしている。

京都市消防署
パンフレット拡大図

京都市消防署
パンフレット拡大図

- ・24時間も勤務している。
- ・夜中も勤務している。
- ・午前と午後に訓練が行われている。やはり訓練は必要。
- ・防火指導というのがある。お年寄りの家や家庭を訪問して防火指導をするらしい。
- ・自主防災組織や消防団の指導をしている。災害に備えて消防署以外の人にも訓練や備えの指導をしているようだ。



- ・訓練は実際に火事があったときに素早く消火活動を行うことができるようにするため。
- ・防火指導をすることで、火事そのものが起きないようにすることを目指している。
- ・人の多いデパートや病院などの安全が守られているかを点検することで、火事による被害を減らそうとしている。
- ・自主防災組織や消防団への指導を行っているのは、地域の人と災害があったときに協力して被害を少なくできるようにするため。
- ・24時間勤務しているのは、夜中に火事があったときでもすぐに駆けつけることができるようにするため。

火事がない時でも火事が起きないように、もし火事が起きた時にも困らないように準備をすることで、火事による被害を小さくしようとしている。

6 本時の目標 (9・10/12 時間目)

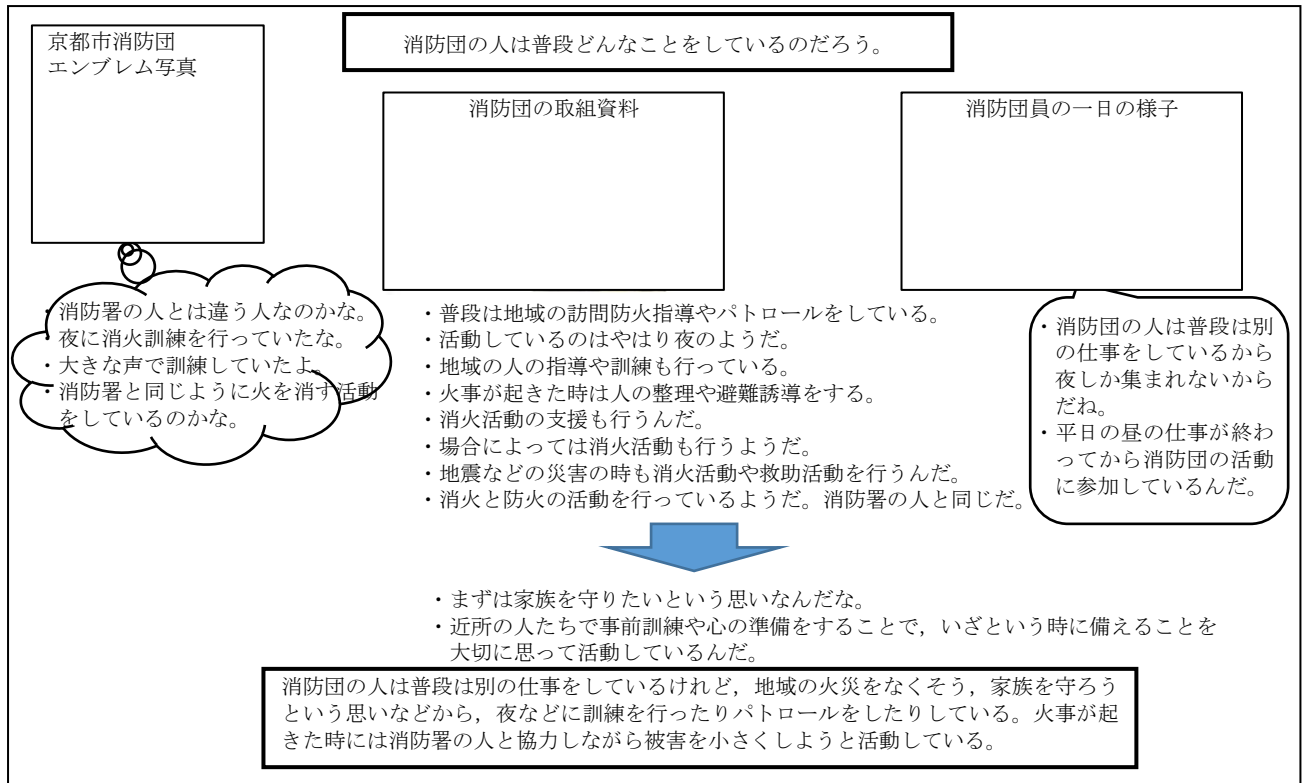
- ・消防団の人はどのようにして火事からわたしたちの生活を守っているのかを調べたり見学したりしてまとめることができるようにする。

7 本時の展開

学習活動 見方 ・<考え方>	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い、本時の問いを立てる。	○前回の学習で消防署の人は様々な機関と連携していましたね。 ・火事の現場では警察署やガス会社、電気会社の人と連携して火事の被害を小さくしようとしていたね。 ・火事が起きていないときも消防団や自主防災の人に指導をしていたね。 ・消防団や自主防災の人も地域で実際に火事が起きた時に被害を小さくするために取り組んでいたね。 ○このエンブレムはその連携しているある機関のエンブレムです。なんの機関でしょう。 ・鳥がかかっているよ。何の鳥だろう。 ・京都と書いてあるようだ。 ○これは消防団のエンブレムです。鳳凰が翼を広げて町を火事から守っている、というイメージだそうです。右の羽は何枚ありますか。 ・11枚かな？ ○京都市にある消防団の数を表しているそうです。そんな消防団の活動、皆さんは見たことがありますか？ ・夜に訓練していたと思うな。 ・夜パトロールに来ていなかったかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 消防団の人は普段どんなことをしているのだろう。 </div>	◆消防団のエンブレムを提示する。 ●前時の学習を想起することで、消防署以外の人々の活動に目を向けることができるようにする。 ●「いつ」見たことがあるのかを問うことで、活動時間について着目できるようにする。
2 普段の生活やこれまでの学習を振り返って予想を立てる。 3 消防団はいつ、どのようなとき、どんな活動をしているのか調べる。 役割 ・ 影響 ・ 協力 仕組み ・ 連携 <分類><比較>	・消防署の人とは違う人なのかな。 ・夜に大きな声で消火訓練を行っていたな。 ・消防署と同じように火事が起きた時に火を消す活動をしているのかな。 ○消防団の人はいつ、どんな時にどのようなことをしているのか、資料を基に調べてみましょう。 ・普段は地域の訪問防火指導やパトロールをしているようだ。 ・活動しているのはやはり夜のようだね。 ・地域の人々の指導や訓練も行っているんだ。 ・火事が起きた時は人の整理や避難誘導をする	◆いつ、どこで、どのようなことをしているのかを、視点を分類しながら整理して板書する。 【技能①】 消防団の取組について資料や消防団の方のお話を基に調べている。

<p>4 消防団の活動がなぜ夜に行われていることが多いのかを考えることで、消防団の活動意義を考える。 ＜比較＞＜分類＞</p> <p>5 本時の問いに対するまとめを行い、振り返りを書きまとめる。</p>	<p>ようだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消火活動の支援も行うんだね。 ・場合によっては消火活動も行うようだ。 ・地震などの災害の時も消火活動や救助活動を行うんだね。 ・消火と防火の活動を行っているようだ。消防署の人と同じだね。 <p>○なぜ夜の活動が多いのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団の人は普段は別の仕事をしているから夜しか集まらないからだね。 ・平日の昼の仕事が終わってから消防団の活動に参加しているんだ。 <p>○普段別の仕事をしているんですね。だから消防団のエムブレムにはボランティアと書かれているんですね。でもなぜ普段別の仕事をしているのに、わざわざ帰ってきてから夜遅くまで消防団の活動を行うのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの町は自分たちで守りたいという思いからではないかな。 ・地域で火事が起きると大きな被害が出るから、自分たちの手で防ごうとしているのではないかな。 <p>○消防団の人の映像がありますので、どのような思いで消防団の活動を行っているのか、話を聞いてみましょう。 (消防団の方に来てもらいました。お話を聞いてみましょう。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは家族を守りたいという思いなんだな。 ・近所の人たちで事前訓練や心の準備をすることで、いざという時に備えることを大切に思っているんだ。 <div data-bbox="427 1563 1027 1812" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>消防団の人は普段は別の仕事をしているけれど、地域の火災をなくそう、家族を守ろうという思いなどから、夜などに訓練を行ったりパトロールをしたりしている。火事が起きた時には消防署の人と協力しながら被害を小さくしようと活動している。</p> </div> <p>○この時間の学習を通じて「これまでの自分の考え方が変わったこと」「初めて知って考えたこと」を書きましょう。</p>	<p>(発言・ノートの記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●消防団の人の一日の資料を確認し、平日の日中は別の仕事をしていること、夜に活動していることを捉えることができるようにする。 ◆エムブレムに書かれている文字がボランティアと書かれていることを確認する。 ●なぜ消防団の人がわざわざ仕事が終わってから活動しているのかを考えることで、地域の人の思いに目を向けることができるようにする。 ◆グループでその理由を考えるようにする。 ●消防団の人の映像やお話し伺って確認することで、どのような思いをもって活動しているのかを検証できるようにする。 ◆どのような視点で振り返るか、振り返りの視点を提示する。 <p>【知識・理解②】</p> <p>地域の人が消防団として消防署と協力することで、火事を防ぐことができることを理解している。</p> <p>(発言・ノートの記述)</p>
---	--	--

8 板書計画



6 本時の目標 (11/12 時間目)

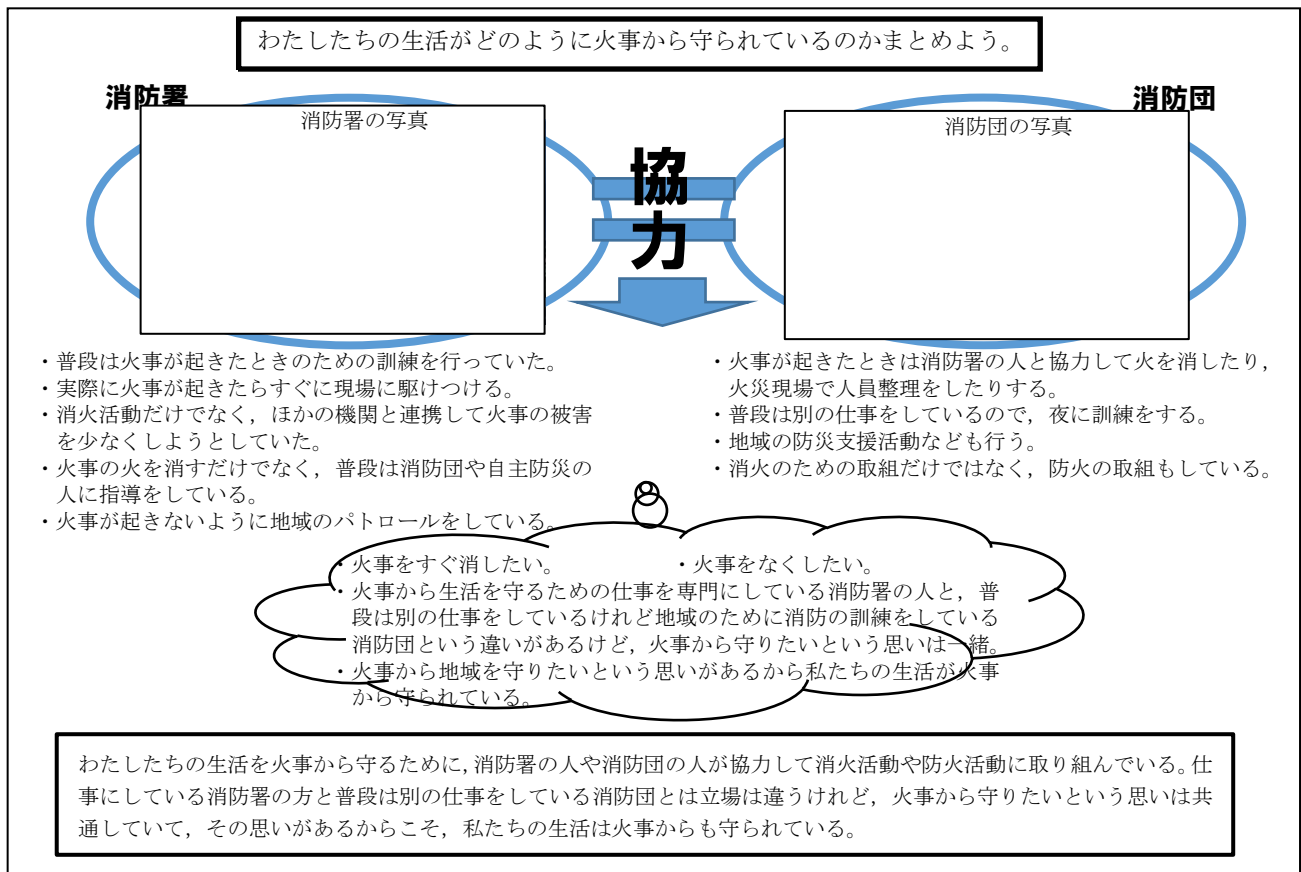
- ・これまでの学習を振り返り，私たちの生活が火事からどのように守られているのかをまとめることができるようにする。

7 本時の展開

学習活動 見方 ・<考え方>	○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問 ・予想される児童の反応	●支援◆留意点 【評価の視点】
1 前時の振り返りを行い，本時のめあてを確認する。 2 消防署や消防団の人々はそれぞれの立場でどのような事をしていたのかを整理する。 役割 ・ 影響 ・ 協力 仕組み ・ 連携 <分類><比較>	○これまでの学習で火事からわたしたちの生活がどのように守られているのかを調べてきました。どんな人たちがわたしたちを火事から守っていましたか。 ・消防署の人が守ってくれていたな。 ・消防団の人にも別の仕事をしているのにいざという時のために訓練していたね。 ○消防署や消防団の人たちによって火事からわたしたちの生活がどのように守られているのかまとめましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> わたしたちの生活がどのように火事から守られているのかまとめよう。 </div> ○消防署や消防団の人はどんなことをしていましたか。 ・消防署の人は普段は火事が起きたときのための訓練を行っていました。 ・実際に火事が起きたらすぐに現場に駆けつけて消火活動をします。 ・消火活動だけでなく，ほかの機関と連携して火事の被害を少なくしようとしていました。 ・火事の火を消すだけでなく，普段は消防団や自主防災の人に指導をしています。 ・火事が起きないように地域のパトロールをしています。 ・消防団の人は火事が起きたときは消防署の人と協力して火を消したり，火災現場で人員整理をしたりしています。 ・普段は別の仕事をしているので，夜に訓練を行います。 ・地域の防災支援活動なども行っていました。 ・立場は違うけれど，消防団も消防署の人もどちらも火を早く消して被害を大きくしないように訓練をしています。 ・消火のための取組だけではなく，防火の取組もどちらもしているね。 ○どちらの立場の人の取組が整理できました。では，それぞれの立場でこの人たちはどのような	◆側面掲示やノートを振り返って確認するよう声掛けをする。 ●消防署と消防団の立場から整理することで，全体像をとらえて整理できるようにする。 ●消防署と消防団のそれぞれの立場で行っている取り組みについて，消火と防火の視点から分けて整理して板書することで，最後に確認できるようにする。 ◆消防団の人はどのような立場であったのかを確認する。 ●どのような思いから取り組んでいるのかを考えること

<p>活動しているのか考える。</p> <p>努力・工夫・願い 役割・影響・協力 仕組み・連携</p> <p><関連><総合> <再構成></p>	<p>うな事を考えてやっていたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防署の人も消防団の人もどちらも火事をすぐ消したいと思っているはずだね。 ・火事を消すだけではなく、火事をなくしたいと思っているよ。 ・火事から生活を守るための仕事を専門にしている消防署の人と、普段は別の仕事をしているけれど地域のために消防の訓練をしている消防団という違いがあるけど、火事から守りたいという思いは一緒だ。 ・火事から地域を守りたいという思いがあるから私たちの生活が火事から守られてきているんだ。 ・消防署や消防団の人が活動してくれているから火事の件数が以前に比べて大きく減ったんだね。 ・消防署と消防団の間には協力という言葉が入るかな。 	<p>で、立場は違えどそれぞれが火事から生活を守りたいという共通の思いをもっていることに気付くことができるようにする。</p> <p>◆これまでの板書を整理し、図式化して示したり消防署と消防団の関係を模式的に表したりすることで、関係性をイメージ化できるようにする。</p> <p>●消防署と消防団の間の言葉を考えることで、消防にどのように携わっているのか考えられるようにする。</p>
<p>4 消防団の活躍の例を紹介する。</p>	<p>○消防団の活動が人々の助けになった例があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先日の大雨の被害の様子だ。 ・消防団が素早く対応したからこそ地域の人の命を助けられたんだ。 ・京都市の消防団だけでなく、全国の消防団の活動が人々の生活を守っているといえるね。 	<p>○新聞記事を紹介することで、自分たちの身の回りで消防団が実際に活躍していることを捉えられるようにする。</p>
<p>5 整理したことを基に学習問題に対する答えをまとめる。</p>	<p>○これまで整理したことを基に、学習問題に対する答えをまとめよう。</p> <div data-bbox="427 1350 1026 1668" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>わたしたちの生活を火事から守るために、消防署の人や消防団の人が協力して消火活動や防火活動に取り組んでいる。仕事にしている消防署の方と普段は別の仕事をしている消防団とは立場は違うけれど、火事から守りたいという思いは共通していて、その思いがあるからこそ、私たちの生活は火事からも守られている。</p> </div>	<p>◆単元の学習問題を確認し、消防署・消防団が連携していたことを抑えてまとめるように声かけをする。</p> <p>【思考・判断・表現②】</p> <p>火事から安全を守るために消防署や関係機関、地域が協力し、様々な工夫をしながら取り組んでいる大切さを説明している。</p>
<p>6 学習の振り返りをまとめる。</p>	<p>○この学習を通じて分かったことや知ったこと、考えたことなどを「自分の生活にどう生かしていきたい」と考えますか。自分の思いを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事を起こさないように活動している消防署や消防団の人たちに感謝していきたいな。 ・私にも火事を防ぐためにできることはあるはずだ。できることはやっていきたいな。 	<p>(発言・ノートの記事)</p> <p>◆どのような視点で振り返るか、振り返りの視点を提示する。</p>

8 板書計画



6 本時の目標 (12/12 時間目)

- ・自分たちの生活を火事から守るために自分たちにできることを考えるとともに、今後どのような事を大切にすべきか考える。

7 本時の展開

<p>学習活動</p> <p>見方・<考え方></p>	<p>○主な発問 ◇問題意識をつなげる発問</p> <p>・予想される児童の反応</p>	<p>●支援◆留意点</p> <p>【評価の視点】</p>
<p>1 前時の振り返りを行うと共に、消防における社会に見られる課題を把握し、本時の問いを設定する。</p> <p>協力・連携・役割 仕組み・業績</p> <p>変化 <比較> 協力・連携 関わり</p>	<p>○消防署と消防団、この二つがどうすることで火事から私たちの生活が守られていました。消防署や消防団が協力することで、年間 200 件前後に火事を抑えているんですね。ただ、安全な街と考えた時、みなさんは年 200 件は多いと思いますか？少ないと思いますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年で考えると 1 日 1 件も起きていないから少ないのでは？ ・やっぱりまだ多い。もっと減らしたいね。 <p>○年間 200 件のうち、多くは建物の火災だそうです。そして火災の原因は、たばこ、放火、コンロが上位を占めています。消防署や消防団が活動しているのですが、火事 0 件はなかなか難しいようです。</p> <p>○このようなデータもありました。どんなことがわかりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の数が、定員に届いていない。 ・10 年以上足りていないんだ。 ・消防署や消防団の力だけでは十分守れない。 <p>○200 件ある火災をどうすればもっと減らせるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200 件を減らすのは難しいのではないかな。 ・任せてばかりでは難しいのではないかな。 ・私たちにもできることがあるんじゃないかな。 	<p>●前時の学習を振り返り、消防署と消防団が協力することで火事から生活が守られていることを模式図で表して確認することで、後の学習につなげることができるようにする。</p> <p>◆具体的な火事の件数に着目し、火事が 0 件になっていないことに注目できるようにする。</p> <p>◆主な火災原因が何かを提示する。</p> <p>●消防団の定員割れという課題を知ることで、社会の課題を認識できるようにする。</p> <p>◆消防署・消防団の活動だけでは足りないことを受け、自分たちも火事を防ぐためには活動すべきことがあるのではないかという意識をもてるようにする。</p> <p>◆提示した資料を基に予想を立てるように声かけをする。</p> <p>◆三者の協力の模式図を提示する。</p>
<p>2 資料を基に予想を立てる。</p> <p>3 資料を基に調べる。</p> <p>努力・役割・工夫</p>	<p>火災件数を減らして安全な街にするために、私たちには何ができるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバコが多いということは、タバコを吸っている人に注意したらいいのではないかな。 ・放火されないようにすることも大切だ。声を掛け合うことがいいのでは。 ・コンロの火災ということは料理をしている時だから、おうちの人への声かけはできそうだ。 <p>○自分たちにできることがあれば、消防署・消防団・私たちの三者で火事から守れそうだね。</p> <p>○この資料を見て、火事を防ぐために自分たちでどんなことができると考えられるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たち自身がたばこを吸うことはないけど、 	<p>●火事の原因となる事象を見付け、それを防ぐためにはどのようなことをしたい</p>

	<p>家族が吸っていたら声かけはできるな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放火されないように外に荷物を置いたりしないことも大切だ。自分も外に置かないようにしたり、家族に声かけしたりできる。 ・料理をしている時は日から目を離さないように注意するよう、伝えることはできる。 ・消火活動することはできないけれど、家族に伝えることで防火することはできる。 ・声かけをすることで家族が意識できれば、火事の件数を減らせるのではないかな。 ・声かけをしたり意識を高めたりすることは自分たちにもできることだ。 	<p>いのかを考えるよう声かけをすることで、自分たちにできることを考えることができるようにする。</p>
<p>4 5年生の実情を確かめる。</p>	<p>○みんなができることは実際に火を消すのではなく、防火の声かけや意識を高めることでなんすね。三者で守れそうです。5年生にアンケートをとってみました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生のデータだと、去年火事をふせぐ学習をしたのに、実際に自分たちでできることができていないようだ。 ・やっている人もいるけど、やっていない人の方がずっと多い。 ・意識しようとしても毎日は難しいのかな。 	<p>◆アンケート結果を提示し、実際に学習した高学年の実情を目にすることができるようにする。</p>
<p>5 火事を少なくするため自分にできることは何かを考える。</p> <p>向上・持続可能性 関わり・協力 役割</p>	<p>○本当にこれで火災を減らせる？できない人の方が多いのに、このような活動をする意味はあるのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しないともっと火災が起きる可能性がある。 ・自分たちも町の一員なのだから、できることはやっていくべきだ。 ・消防団の数が減っているのだから、消防団に頼るだけでは十分ではない。自分たちも関わってかないと地域が守れない。 	<p>●高学年の実情を踏まえ、自分ができることを考えるようにする。</p>
<p>6 整理したことを基に学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>○自分たちが関わっていく必要があるのですね。私たちにできることにも様々なものがありますが、みなさんはそれぞれどんなことを取り組んでいこうと考えますか。理由も併せて自分の考えをまとめましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>私は直接火を消したりすることはできないけれど、火事にならないように火を使う時家族に声を掛けたり、ヒーターの近くに物を置かなかったりすることはできる。小さな意識を続けられるよう、家族もその意識をもてるよう伝えていくことで火事を少なくできると考える。</p> </div>	<p>◆どのような視点でまとめるのか、まとめの視点を提示する。</p> <p>【関心・意欲・態度②】</p> <p>火事から生活を防ぐために、自分にできることは何かを考え、理由を明確にしてできることを選択している。</p> <p>(ノートの記述・発言)</p>

8 板書計画

火災件数を減らして安全な街にするために、私たちには何ができるのだろうか。



京都市消防署
パンフレット拡大図

- ・タバコを吸っている人に注意。
- ・放火されないようにすることも大切。声を掛け合う。
- ・コンロの火災ということは料理をしている時だから、おうちの人への声かけはできる。

- ・消防団員の数が、定員に届いていない。
- ・10年以上足りてない

- ・私たち自身がタバコを吸わないが、家族が吸っていたら声かけはできる。
- ・放火されないように外に荷物を置いたりしない。家族に声かけできる。
- ・料理をしている時は目から目を離さないように注意するよう、伝える。
- ・消火活動はできないが、家族に伝えることで防火することはできる。
- ・声かけで家族が意識できれば、火事の件数を減らせるな。

- ・実際に自分たちでできることができていない。
- ・やっている人もいるけど、やっていない人の方がずっと多い。

- ・しないとずっと火災が起きる可能性がある。
- ・自分たちも町の一員なのだから、できることはやっていくべきだ。
- ・消防団の数が減っているのだから、消防団に頼るだけでは十分ではない。自分たちも関わってかないと地域が守れない。

私は直接火を消したりすることはできないけれど、火事にならないように火を使う時家族に声を掛けたり、ヒーターの近くに物を置かなかったりすることはできる。小さな意識が続けられるよう、家族もその意識をもてるよう伝えていくことで火事を少なくできると考える。